

# 雄物川水系河川整備計画の策定について (大臣管理区間)

## 治水に関する整備目標について

- ・ 整備目標の基本的考え方
- ・ 雄物川における整備目標（案）の考え方
- ・ 雄物川における整備目標（案）

平成20年12月25日  
国土交通省 東北地方整備局

# 整備目標の基本的考え方 雄物川水系河川整備目標の基本的考え方 (第3回学識者懇談会時)

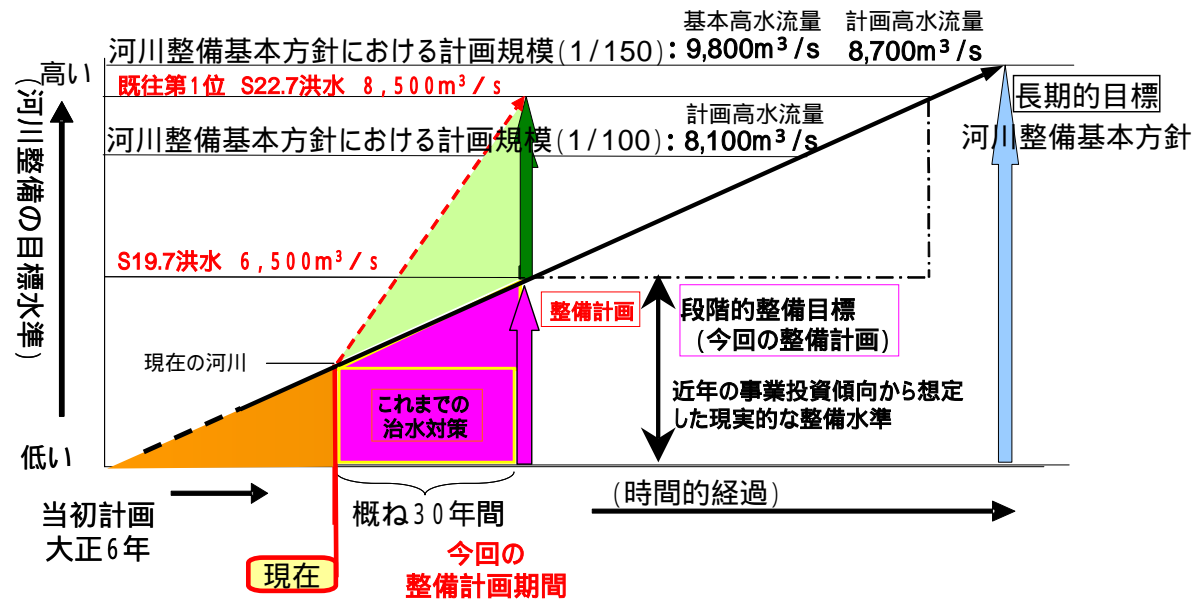
東北地方整備局管内の河川整備計画(大臣管理区間)における治水の目標は、概ね戦後第1位の洪水であり、これを概ね30年間の河川整備で対応。

雄物川の第1位洪水は昭和22年7月洪水で椿川地点流量 $8,500\text{m}^3/\text{s}$ であり、雄物川水系における計画高水流量(1/150規模) $8,700\text{m}^3/\text{s}$ と概ね同等であることから、雄物川の現在の整備状況を勘案すると、今後概ね30年の期間で実施する段階的な治水の整備目標とするには著しく高い水準であり、期間内の整備目標としては、適当ではない。

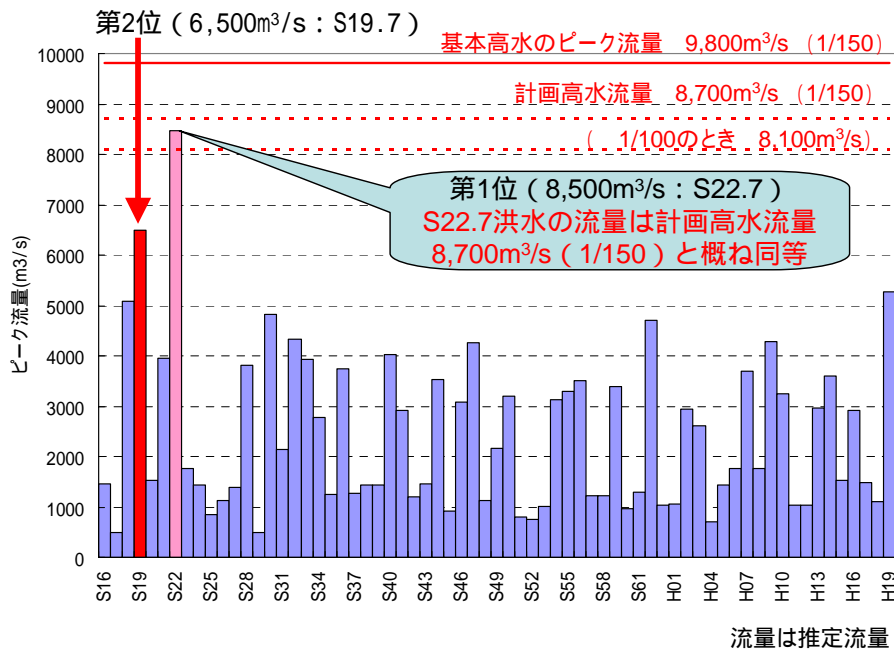
よって、雄物川の整備計画における目標の対象は第1位の昭和22年7月洪水以外とする。データの蓄積状況を考慮し、椿川基準地点の昭和16年～平成19年の期間で第2位の流量となる昭和19年7月洪水を整備計画の目標とする。

また、雨が降った地域により洪水流量に差が生じるため、雄物川水系の各主要地点(椿川以外)における目標流量の決定にあたっても基準地点と同様、昭和22年7月洪水以外の実績洪水から目標を選定。

## 雄物川の整備計画目標



## 雄物川水系 椿川基準地点の流量



## 雄物川水系における治水の目標

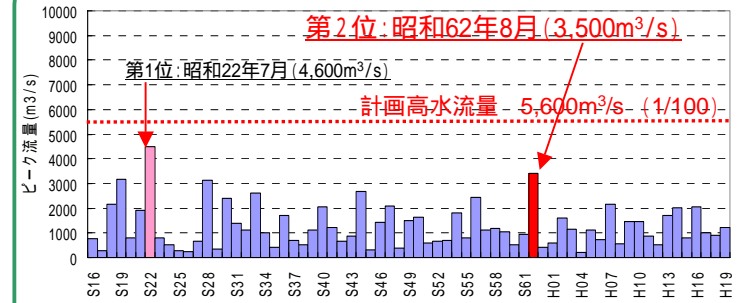
今回定める河川整備計画の対象期間は  
今後概ね30年間

雄物川水系における治水目標は、著しく整備水準が高い昭和22年7月洪水を除き、各主要地点において第1位となる洪水が発生しても、浸水被害等の重大な家屋被害の防止を図ると共に、農地等についても浸水被害の軽減に努める。

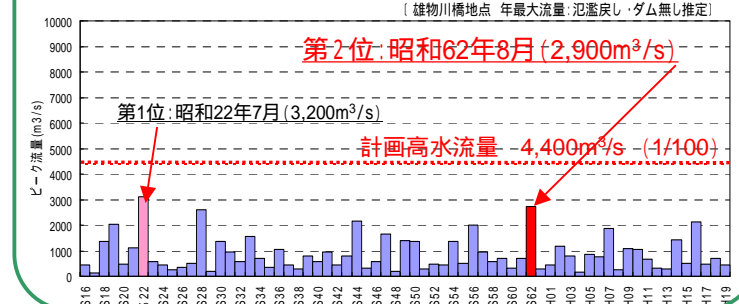
### 【治水対策の対象洪水】

- 椿川地点(雄物川：河口～玉川合流点) 昭和19年7月洪水規模
- 大曲地点(雄物川：玉川合流点～横手川合流点) 昭和62年8月洪水規模
- 雄物川橋地点(雄物川：横手川合流点～上流端) 昭和62年8月洪水規模
- 玉川橋地点(玉川) 平成19年9月洪水規模
- 岩崎橋地点(皆瀬川・成瀬川) 昭和62年8月洪水規模

### 雄物川：雄物川大曲地点の年最大流量(氾濫戻しダム無し推定)



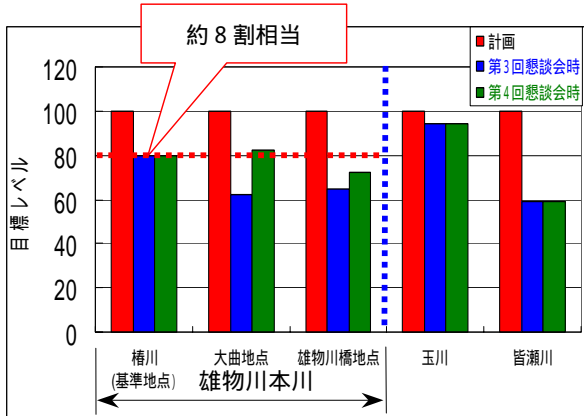
### 雄物川：雄物川橋地点の年最大流量(氾濫戻しダム無し推定)



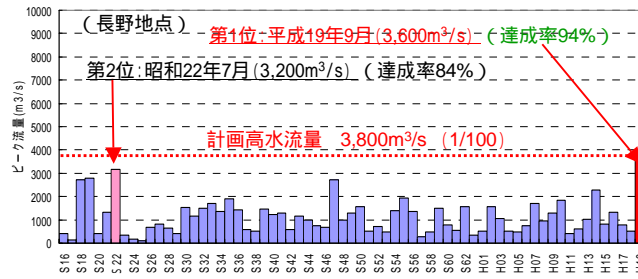
# 雄物川における整備目標（案）の考え方 雄物川水系河川整備計画（河川法第16条の二）における治水の目標

大曲地点・雄物川橋地点の整備計画目標について再検討を実施した。  
 ・第3回懇談会で提示した目標の場合、目標レベル（整備計画目標流量 / 計画高水流量に対する割合）は椿川で約8割であるが、大曲地点・雄物川橋地点では約6割に留まり、中流部の資産集積地である大仙市・横手市周辺が低い設定であった。  
 ・大曲地点・雄物川橋地点における昭和22年7月洪水規模は、目標レベルとしては概ね8割となり、雄物川沿川の資産集積に応じた目標レベル向上が図られることとなるため、一貫した整備水準の確保が可能となることから、整備計画で目指す目標として妥当と判断。

整備計画目標流量：河道及び洪水調節施設への配分によって対応する流量



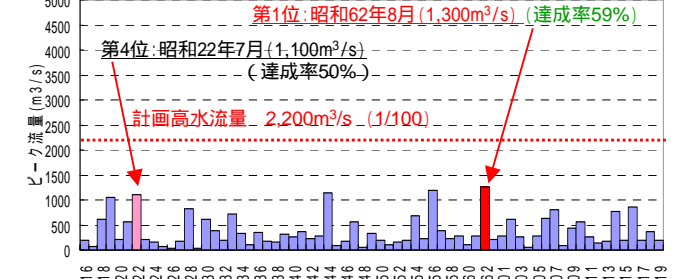
支川玉川：玉川橋地点の年最大流量（氾濫戻しダム無し推定）



長野地点

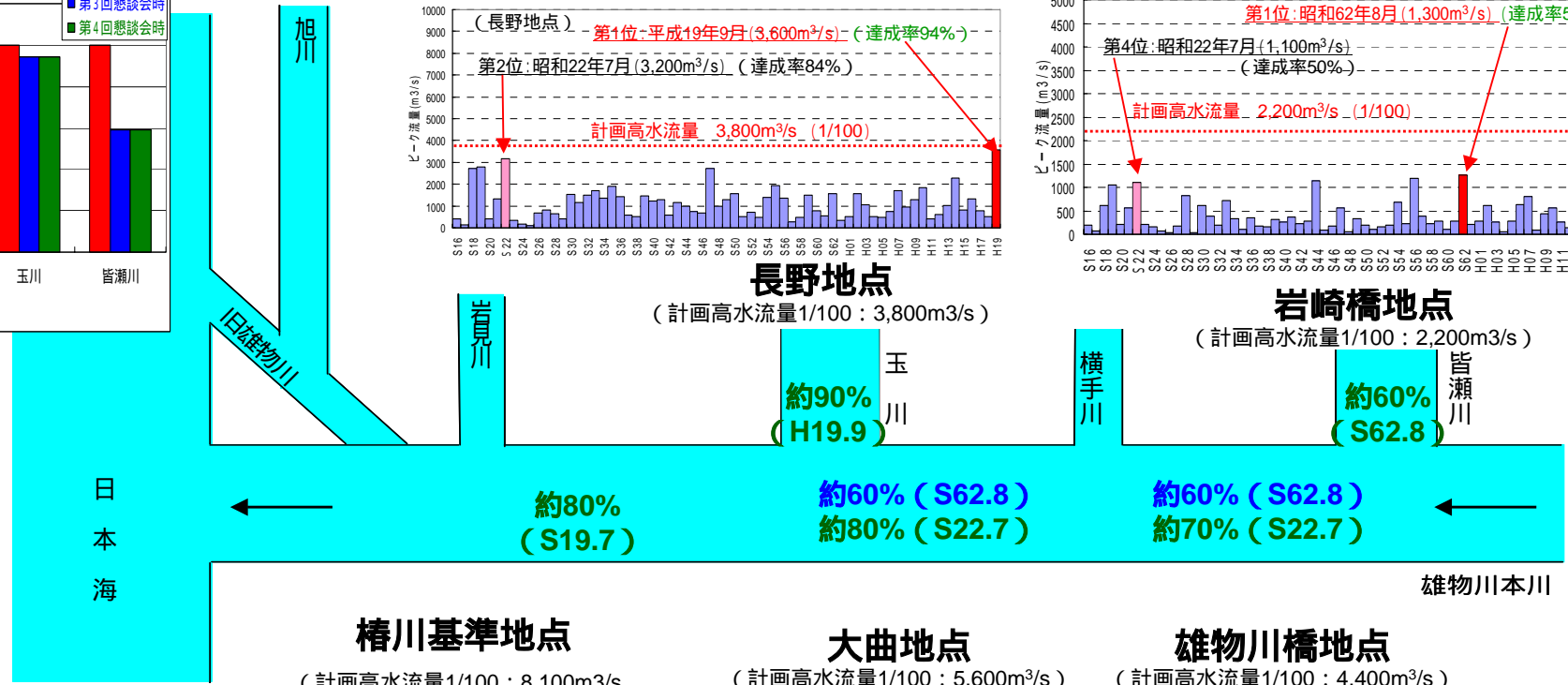
(計画高水流量1/100 : 3,800m³/s)

支川皆瀬川：岩崎橋地点の年最大流量（氾濫戻しダム無し推定）

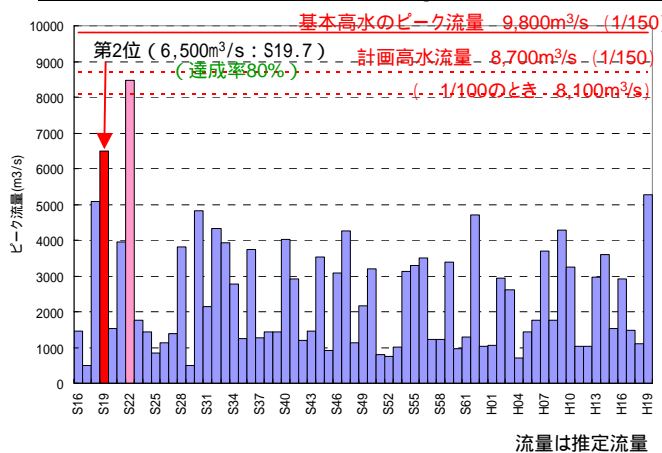


岩崎橋地点

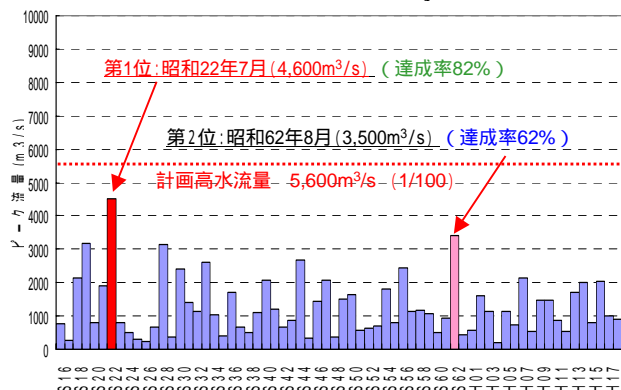
(計画高水流量1/100 : 2,200m³/s)



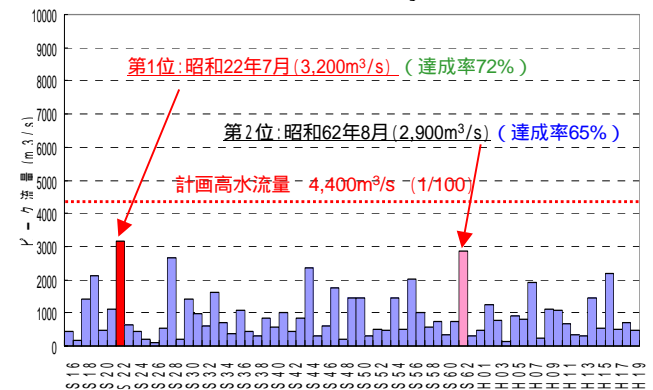
雄物川：椿川基準地点の年最大流量（氾濫戻しダム無し推定）



雄物川：雄物川大曲地点の年最大流量（氾濫戻しダム無し推定）



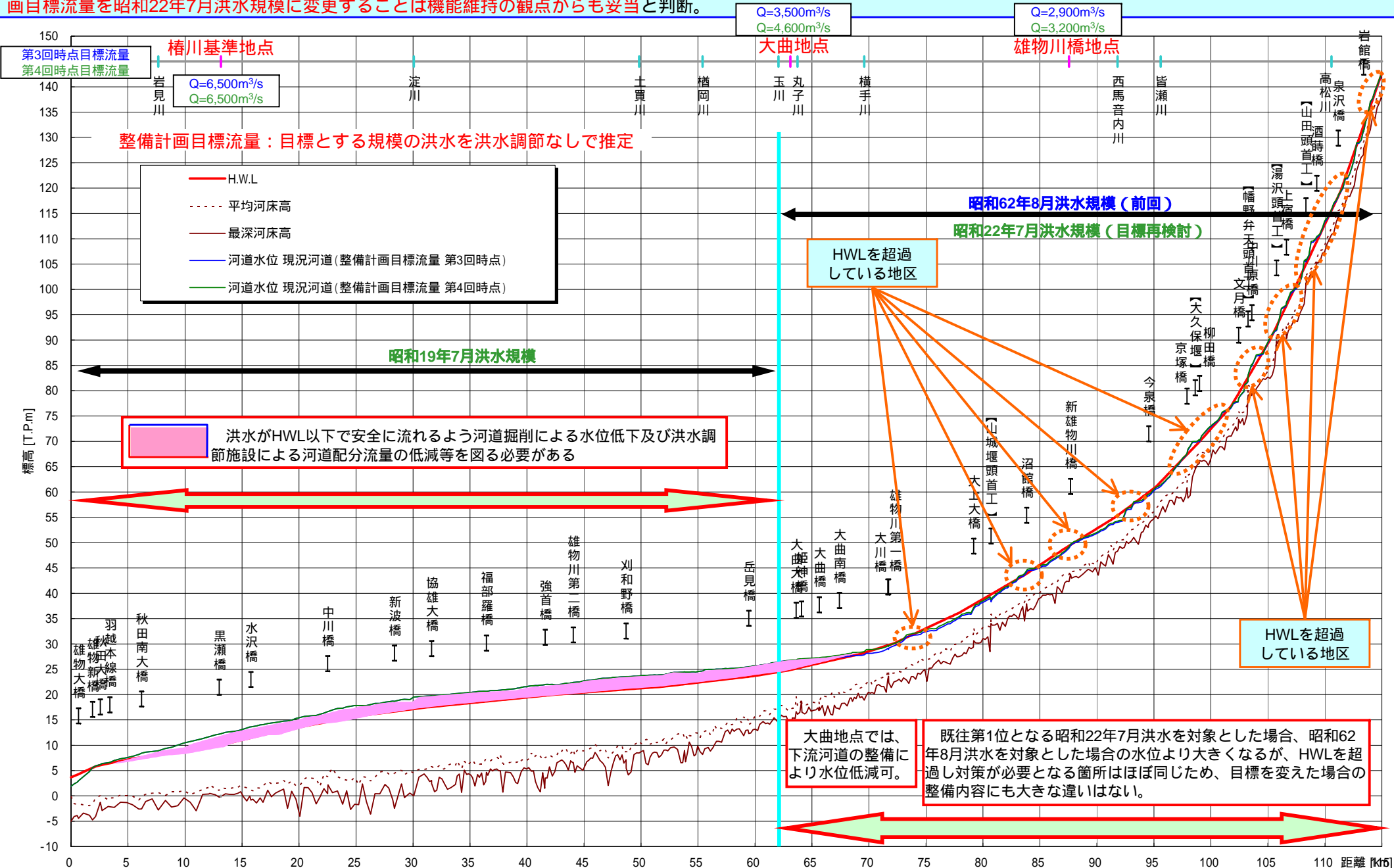
雄物川：雄物川橋地点の年最大流量（氾濫戻しダム無し推定）



# 雄物川における整備目標（案）の考え方 雄物川水系河川整備計画（河川法第16条の二）における治水の目標

大曲地点から上流区間については、戦中・戦後の時代から先行して改修が行われてきた区間であり整備水準が高く、既往第1位となる昭和22年7月洪水規模が現況河道を流下した場合に想定される水位は昭和62年8月洪水規模の場合と比較して大きい、HWL以下で安全に流下させるために対策が必要となる箇所はほぼ同じで、整備内容に大きな違いはない。また、大曲地点はHWLを大きく超過しているが、大曲捷水路等により河道がもつ洪水流下能力が大きく、玉川合流点より下流で必要となる河道整備により水位を低減できる。従って、大曲地点から上流区間は、昭和22年7月洪水を整備目標としても十分に対応可能と判断した。

整備計画においては、河道で洪水を安全に流下させる機能を将来にわたって維持管理することも大きな目標であり、整備水準が比較的高い大曲地点・雄物川橋地点における整備計画目標流量を昭和22年7月洪水規模に変更することは機能維持の観点からも妥当と判断。



雄物川水系における治水の目標

雄物川水系における治水目標は、『既往最大洪水等の昭和年代に発生した代表的洪水と同規模の洪水が発生しても、浸水被害等の重大な家屋被害の防止を図るとともに、農地等についても浸水被害の軽減に努める』こととする。

今回定める今後概ね30年間の河川整備計画目標流量

整備計画の目標(案)

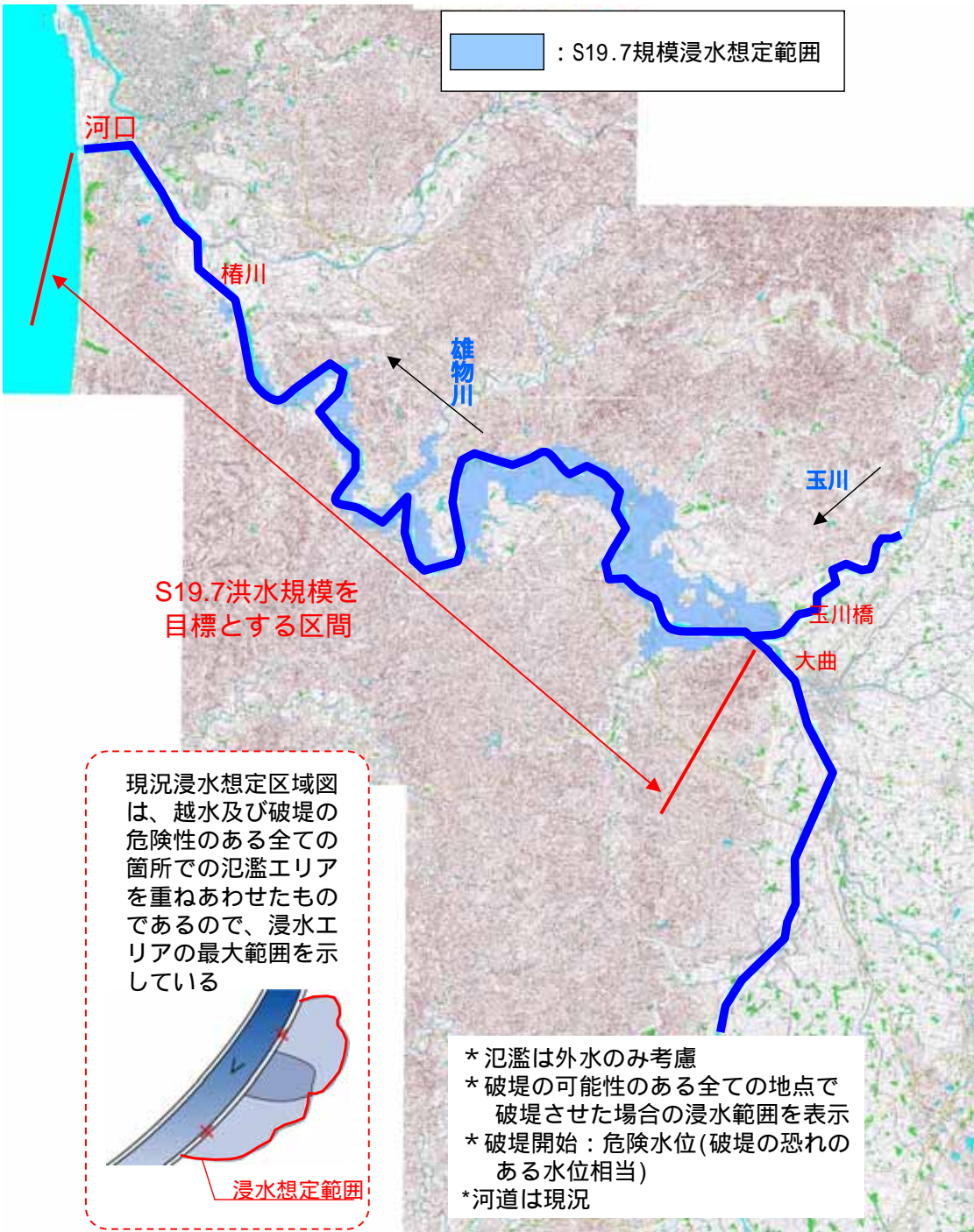
- 【治水対策の対象洪水】
- 樺川地点（雄物川：河口～玉川合流点） 昭和19年7月洪水規模
  - 大曲地点（雄物川：玉川合流点～横手川合流点） 昭和22年7月洪水規模
  - 雄物川橋地点（雄物川：横手川合流点～上流端） 昭和22年7月洪水規模
  - 玉川橋地点（玉川） 平成19年9月洪水規模
  - 岩崎橋地点（皆瀬川・成瀬川） 昭和62年8月洪水規模

河川名	地点名	整備計画目標流量	
雄物川	樺川	7,100m <sup>3</sup> /s	S19.7規模
	大曲	4,600m <sup>3</sup> /s	S22.7規模
	雄物川橋	3,200m <sup>3</sup> /s	S22.7規模
玉川	玉川橋	3,600m <sup>3</sup> /s	H19.9規模
皆瀬川 成瀬川	岩崎橋	1,300m <sup>3</sup> /s	S62.8規模

整備計画目標流量：河道及び洪水調節施設への配分によって対応する流量



現況河道及び現況洪水調節施設で昭和19年7月洪水規模と同規模の洪水が発生した場合の浸水想定区域



**河口～玉川合流点**  
 昭和19年7月洪水規模と同規模の洪水が発生した場合、  
 現況流下能力を超過し、氾濫する

水系の基準となる地 樺川	実績流量 (氾濫なしダム無し推定)	現況洪水調節施設 施設調節後の河道流出量	河道超過流量
昭和19年7月規模	6,500m <sup>3</sup> /s	6,400m <sup>3</sup> /s	-
現況流下能力	5,000m <sup>3</sup> /s (区間最小)		1,400m <sup>3</sup> /s

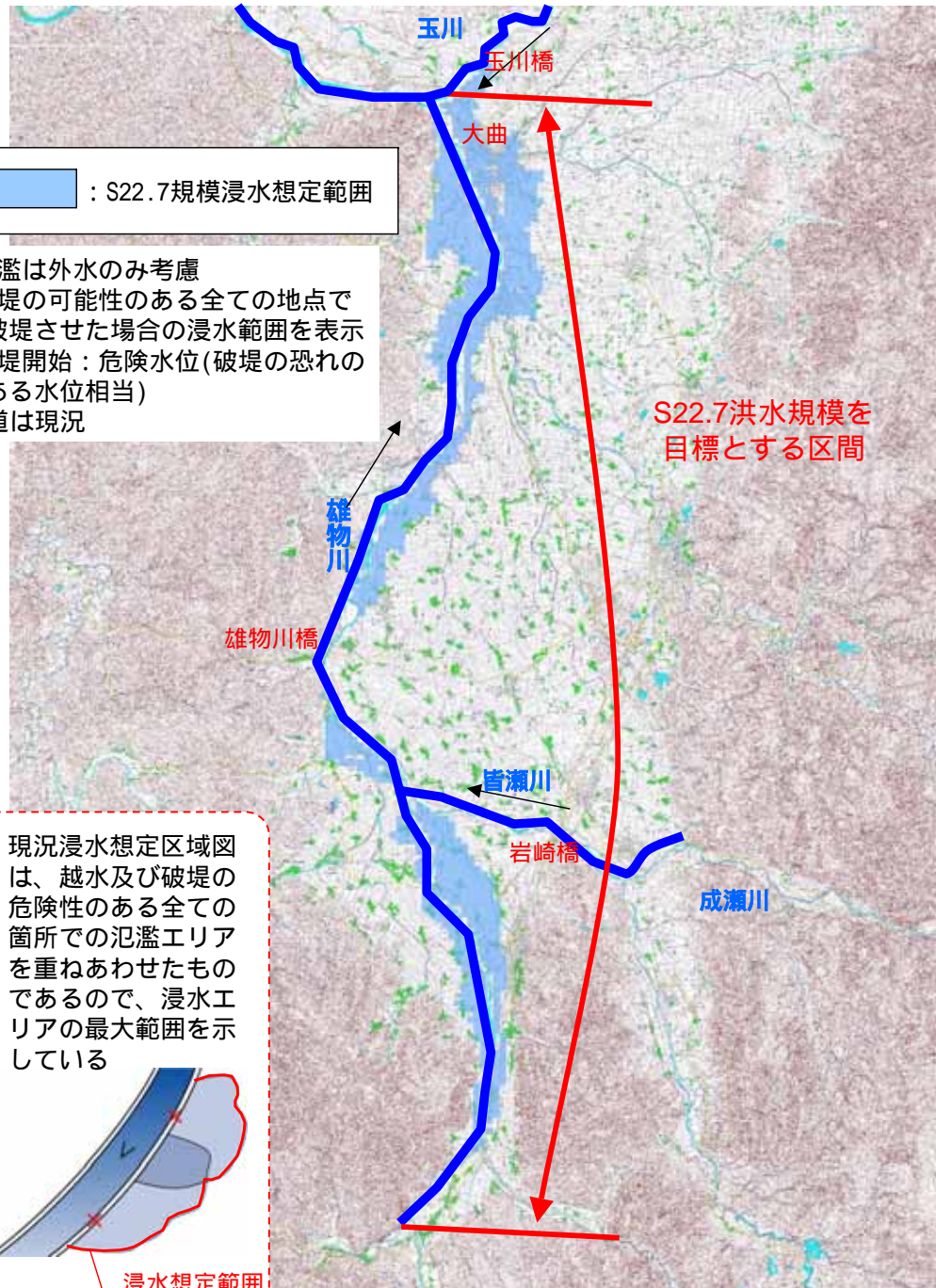
【昭和19年7月洪水規模における浸水想定世帯数と面積】

			想定被害内容 (河口～玉川合流点)
浸水想定 世帯数	床上	雄物川	約 3,100 世帯
	床下	雄物川	約 150 世帯
浸水想定面積		雄物川	約 5,400 ha

昭和19年7月洪水規模と同規模の洪水が発生した場合、  
 現況の河道と現況の洪水調節施設では洪水氾濫による被害を防止することが困難  
**新たな治水対策が必要**

現況洪水調節施設（直轄ダム：玉川ダム、補助ダム：鎧畑ダム、皆瀬ダム 等）

現況河道及び現況洪水調節施設で昭和22年7月洪水規模と同規模の洪水が発生した場合の浸水想定区域



■ : S22.7規模浸水想定範囲

- \* 氾濫は外水のみ考慮
- \* 破堤の可能性のある全ての地点で破堤させた場合の浸水範囲を表示
- \* 破堤開始：危険水位(破堤の恐れのある水位相当)
- \* 河道は現況

S22.7洪水規模を目標とする区間

現況浸水想定区域図は、越水及び破堤の危険性のある全ての箇所での氾濫エリアを重ねあわせたものであるため、浸水エリアの最大範囲を示している

**玉川合流点～上流端**  
 昭和22年7月洪水規模と同規模の洪水が発生した場合  
 現況流下能力を超過し、氾濫する

主要な地点 大曲	実績流量 (氾濫戻しダム無し推定)	現況洪水調節施設 施設調節後の河道流出量	河道超過流量
昭和22年7月規模	4,600m <sup>3</sup> /s	4,400m <sup>3</sup> /s	-
現況流下能力	3,200m <sup>3</sup> /s (区間最小)		1,200m <sup>3</sup> /s

主要な地点 雄物川橋	実績流量 (氾濫戻しダム無し推定)	現況洪水調節施設 施設調節後の河道流出量	河道超過流量
昭和22年7月規模	3,200m <sup>3</sup> /s	3,100m <sup>3</sup> /s	-
現況流下能力	2,000m <sup>3</sup> /s (区間最小)		1,100m <sup>3</sup> /s


【昭和22年7月洪水における浸水想定世帯数と面積】

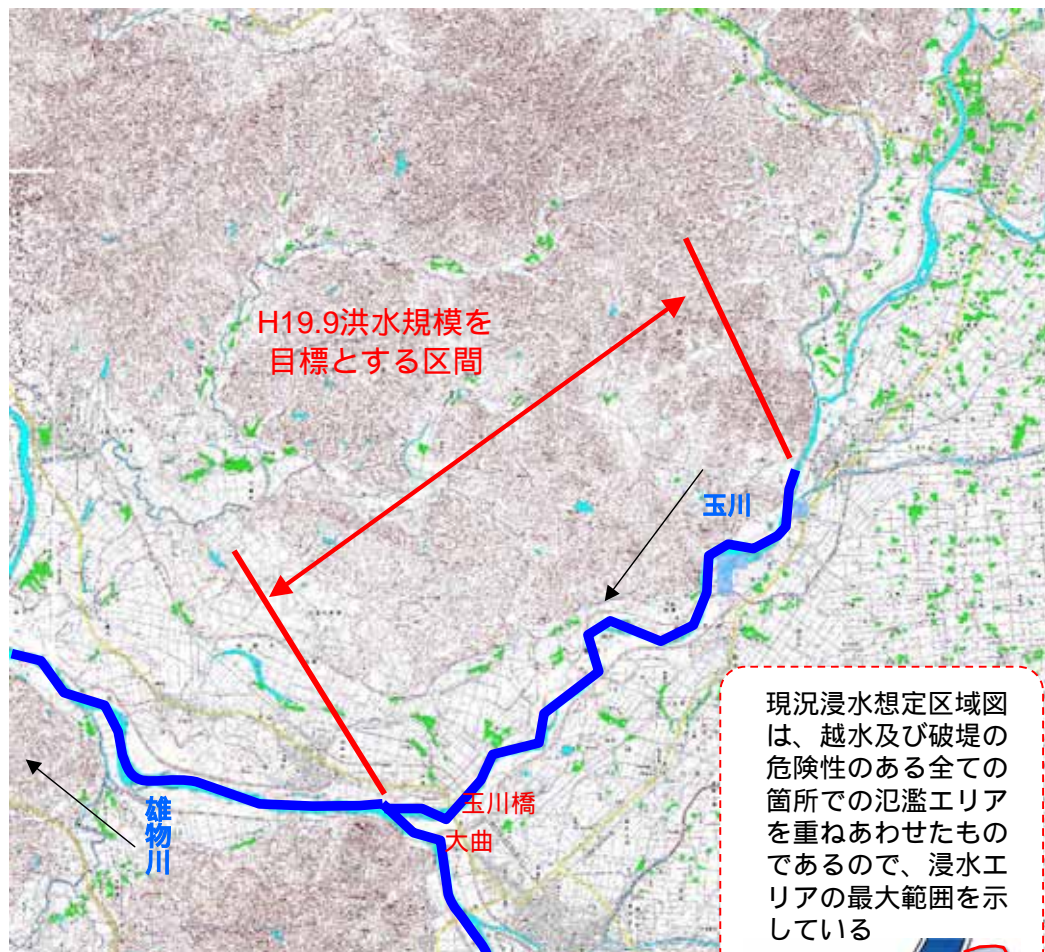
			想定被害内容 (玉川合流点～上流端)
浸水想定 世帯数	床上	雄物川	約 8,000 世帯
	床下	雄物川	約 3,400 世帯
浸水想定面積		雄物川	約 6,200 ha

昭和22年7月洪水規模と同規模の洪水が発生した場合、  
 現況の河道と現況の洪水調節施設では洪水氾濫による被害を防止することが困難  
**新たな治水対策が必要**

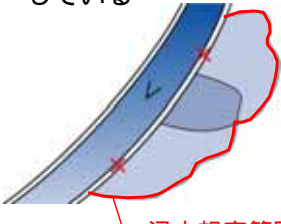
現況洪水調節施設（補助ダム：鏝畑ダム，皆瀬ダム 等）

現況河道及び現況洪水調節施設で平成19年9月洪水規模と同規模の洪水が発生した場合の浸水想定区域

 : H19.9規模浸水想定範囲



現況浸水想定区域図は、越水及び破堤の危険性のある全ての箇所での氾濫エリアを重ねあわせたものであるため、浸水エリアの最大範囲を示している



- \* 氾濫は外水のみ考慮
- \* 破堤の可能性のある全ての地点で破堤させた場合の浸水範囲を表示
- \* 破堤開始：危険水位(破堤の恐れのある水位相当)
- \* 河道は現況

**支川玉川**  
 平成19年9月洪水規模と同規模の洪水が発生した場合、**現況流下能力を超過し、氾濫する**

主要な地点 玉川橋（長野）	実績流量 （氾濫戻しダム無し推定）	現況洪水調節施設 施設調節後の河道流出量	河道超過流量
平成19年9月規模	3,600m <sup>3</sup> /s	2,900m <sup>3</sup> /s	-
現況流下能力	2,500m <sup>3</sup> /s（区間最小）		400m <sup>3</sup> /s

【平成19年9月洪水規模における浸水想定世帯数と面積】

			想定被害内容 (玉川)
浸水想定 世帯数	床上	玉川	約 0 世帯
	床下	玉川	約 30 世帯
浸水想定面積		玉川	約 30 ha


平成19年9月洪水規模と同規模の洪水が発生した場合、**現況の河道と現況の洪水調節施設では洪水氾濫による被害を防止することが困難**

**新たな治水対策が必要**

現況洪水調節施設（直轄ダム：玉川ダム、補助ダム：鎧畑ダム）



現況河道及び現況洪水調節施設で昭和62年8月洪水規模と同規模の洪水が発生した場合の浸水想定区域

 : S62.8規模浸水想定範囲



支川皆瀬川、成瀬川  
 昭和62年8月洪水規模と同規模の洪水が発生した場合、**現況流下能力を超過し、氾濫する**

主要な地点 岩崎橋	実績流量 (氾濫戻しダム無し推定)	現況洪水調節施設 施設調節後の河道流出量	河道超過流量
昭和62年8月規模	1,300m <sup>3</sup> /s	1,100m <sup>3</sup> /s	-
現況流下能力	1,000m <sup>3</sup> /s (区間最小)		100m <sup>3</sup> /s

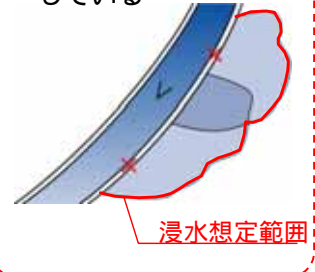
【昭和62年8月洪水規模における浸水想定世帯数と面積】

		想定被害内容 (皆瀬川、成瀬川)	
浸水想定 世帯数	床上	皆瀬川	約 800 世帯
	床下	皆瀬川	約 50 世帯
浸水想定面積		皆瀬川	約 350 ha

昭和62年8月洪水規模と同規模の洪水が発生した場合、**現況の河道と現況の洪水調節施設では洪水氾濫による被害を防止することが困難**  
**新たな治水対策が必要**

現況洪水調節施設（補助ダム：皆瀬ダム）

現況浸水想定区域図は、越水及び破堤の危険性のある全ての箇所での氾濫エリアを重ねあわせたものであるため、浸水エリアの最大範囲を示している



- \* 氾濫は外水のみ考慮
- \* 破堤の可能性のある全ての地点で破堤させた場合の浸水範囲を表示
- \* 破堤開始：危険水位(破堤の恐れのある水位相当)
- \* 河道は現況